

植物標本の作り方 1

植物を乾燥させて標本を作ることは、植物の記録を永く残すためだけではなく、植物の名前を覚えるためにも大変役立ちます。空地や道ばた、田畑のあぜなどの身近な場所にも意外に多くの植物が生活しています。

採集用具

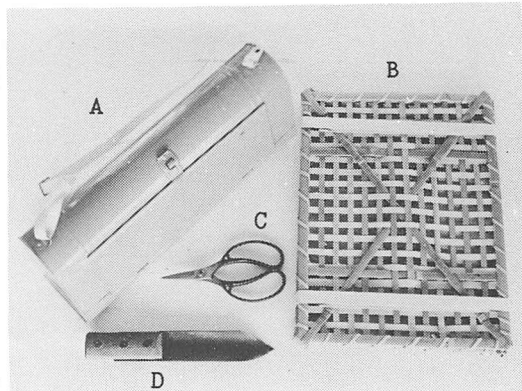
胴乱 採集した植物がしおれないように保護するもの（写真A）。

野冊 採集した植物を野外ではさんでおくもの（写真B）。

ハサミ 庭木用のせん定バサミや生花用のハサミを使います（写真C）。

根掘り 普通の移植ゴテより丈夫に作られています（写真D）。

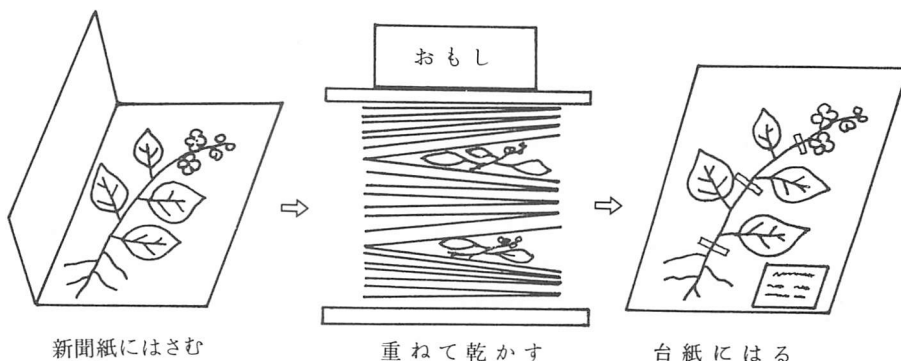
メモ帳、豆荷札、鉛筆、油性ペンなどを持ち歩いて必ず採集地の記録をとっておきます。



採集用具

おしぼの作り方

1. 採集する植物は、正常に生育した株で、できるだけ根、花、実がそろったものを選びます。
2. 根についた土をよく落して、1枚の新聞紙を四折にしたものに1株ずつ花や葉の形をととのえてはさみます。長いものや大きいものは折り曲げたり、二つに切り分けてはさみます。
3. 標本をはさまない新聞紙を1日分ずつ間にはさみながら重ねて、上に板とおもしをのせます。おもしにはコンクリートブロックを2個程度使います。
4. 間の新聞紙を毎日乾いた紙と交換します。1回目の時に折れ曲った葉などの形をととのえます。植物をはさんでいる新聞紙は取り替えず、乾くまではさんだままにしておきます。
5. 10日ぐらいで十分に乾燥したものを台紙（白表紙）にはります。台紙には、花や葉の特徴がわかるように置き、細く切った紙テープにのりをつけて固定します。
6. ラベルに和名、科名、採集地、採集年月日などを記録して台紙の右下にはります。
7. 完成した標本は、防虫剤といっしょにケースに入れて、乾燥した所で保存します。



青森市植物公園

植物標本の作り方 2

高等植物だけでなく海藻やコケ、キノコなどいろいろな方法で標本を作ることができます。

海藻標本

1. 海水浴や潮干狩のついでに集めてもよいが、4～5月の大潮の日を選んでいくと多くの種類を集めることができます。
2. 持ち帰った海藻はバケツの中で水を流しながら塩抜きをするとともに、ゴミを取り除きます。塩抜きの時間は、体のやわらかい紅藻類で約5分、緑藻、カツ藻類で10～30分。
3. 1株ずつ水を入れたバットに入れて、水中で、適当な大きさに切った画用紙の上に広げます。
4. 枝や葉を広げた状態で画用紙とともにゆっくりすくい上げて、傾斜した台の上に置きしばらく水切りします。
5. 水切り後上からガーゼかさらし木綿をかぶせて新聞紙にはさみます。
6. おしば標本と同じ方法で乾かし、おもしろを軽くして、紙は1日に2回以上交換します。
7. 乾燥してから上にかけた布をていねいにはぎ取ります。画用紙のまま台紙にはって、ラベルをつけます。ホンダワラのようにつきが悪いものは紙テープで固定しておきます。

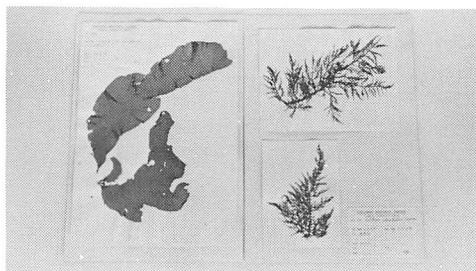
コケ標本

1. 樹上や岩上だけでなく、庭や植木鉢の土の上にもコケは生活しています。いろいろな環境で生活しているコケを集めて標本にすることもできます。
2. ナイフや根掘で手のひらの半分くらいのコケをはぎとります。小さなコケは土がついたままで、大きなコケは土やゴミを取り除いて乾燥します。
3. 丈夫な紙を折りたたんで作った袋や封筒に入れて、表にラベルをはります。生育環境をくわしく記録しましょう。
4. 大型のミズゴケやスギゴケの仲間はおしば標本の作り方でも作れます。

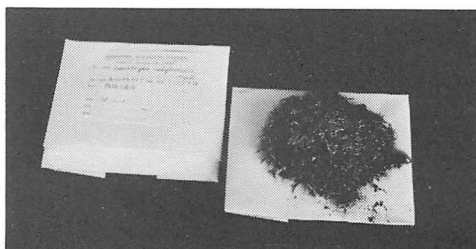
キノコ標本

1. 梅雨や秋はいろいろなキノコが発生します。
採集したキノコは形がくずれないように持ち帰ります。
2. コケ標本のように新聞紙の上に拡げて乾燥したものを袋に入れて保存します。
3. 軟らかいキノコはホルマリンの7～10倍液に漬けてガラスビンで保存します。

これらの他に、種子、果実、樹皮など植物体の一部を標本にして集め、いろいろ比較してみてもおもしろいものです。



海藻標本



コケ標本



青森市植物公園